

## 現代ギリシア語の授業：広島大学

浮田 三郎

広島大学には、古典ギリシア語と現代ギリシア語に関する授業は、いくつか開設されているが、今回は、現代ギリシア語の授業に関して報告する。

現代ギリシア語の学部生対象の授業は、広島大学文学部で、科目「特殊言語学」の「現代ギリシア語概論」という講義題目で昭和62年4月から週1コマ(90分)前期後期通年で開設されている。

授業の目標は、ギリシア語の歴史から、現代ギリシア語の統語論を中心に、標準的な現代ギリシア語の例文を利用して、現代ギリシア語の構造を考察することにある。いわゆる初級の語学演習とは少し趣を異にしている。

主要学習項目の中でも、「歴史」、「音韻論」、「冠詞」、「実詞の分類」、「実詞の格、数、性の用法」、「形容詞の用法」、「代名詞の用法」、「動詞の活用の種類、人称と数、時称とアスペクト、相、法」、「語順」などが興味の対象になったり、また学習に当たって困難な項目でもあるようである。したがって、関本至著『現代ギリシア語文法』、泉屋書店、1968年、を中心に、他の「モノトニコ」のテキストや文例を利用している。

受講者は、ほとんど文学部の学生でその大部分が言語学専攻の学生である。受講者数は、4月の授業開始時で大体10人前後で、最も多い時で15人ぐらい、少ない時は後期の最終試験を受けた学生が2名の時もあった。数年前から、大学院の授業も開設され、現在は学部との合併授業を行っている。

これとは異なる立場で、教育学研究科(大学院)の日本語教育学専攻の中の「対照言語学」の講義題目で日本語と現代ギリシア語を対照しながら日本語の構造を考察する授業も行っている。ここでの受講者は多い時で6名である。

以上の授業に対して、もう少しアピールできる授業ができないものかと毎年反省しているが、なかなかである。